

地域のよさをみつめ・発信する児童の育成

～おぐにチャンネルの活用を通して～

小国町立小国学校

〒869-2501
熊本県阿蘇郡小国町立小国小学校

1. 研究の背景

本校は熊本県の北部に位置し、大分県境と接している。平成21年4月、町内の6つの小学校を統合し、町唯一の小学校となって5年目になる。統合と同時に文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、隣接する小国中学校と小中一貫教育及び、3年生以上は、地域に根ざした教科「小国学」（総合的な学習の時間にあたるもの）や英会話科などを創設し、本校独自のカリキュラムを作り実践している。

統合を受け、新たな学校・教育が始まる一方、それまでそれぞれの地域の核として存在していた学校がなくなり、自分の子どもが通っていない家庭や、祖父母世代の方からは「学校が閉校して寂しい」や「新しい学校の情報があまりわからない」などの声も聞こえてくる。学校の様子は、回覧板を通して各家庭に「学校便り」などで知らせているが、まだ十分とはいえない。

平成23年度から、小国町では地域のケーブルTV局「おぐにチャンネル」が始まった。現在、30分の番組を1日4回繰り返して放送している。（2週間に一度の番組を更新）番組内容は、町からのお知らせや町内のニュースなどである。そのニュースの中には、入学式、運動会、餅つきなどの学校行事を多く放送されており、児童も含め保護者や地域の方からの反響も耳にする。

2. 研究の目的

「おぐにチャンネル」の番組内に、小国学での取り組みの様子や学習の成果を発表する機会を設けることで、児童が小国学への学習意欲の向上や学習内容の充実につながると考える。

また、今まで見る側だった「おぐにチャンネル」が、情報を発信する側を経験することで、情報の収集・選択・加工などの情報活用能力や、テレビ（メディア）の特性を理解した上での情報発信の仕方などを学ぶことができると考えている。

さらに、「おぐにチャンネル」の中で子どもたちが発信する情報は、新たな学校の様子を地域へ伝える強力な手段にもなり、学校と地域を今まで以上に近づける役割を担うことも期待する。

3. 研究の方法

3年生から6年生の小国学（3・4年生：年間53時間、5・6年生88時間）の中で行う。地域での体験や学習したことをまとめていく表現手段のひとつとしておぐにチャンネルに放送する番組作りを行う。

また、学校の様子を地域への情報発信の手段として「おぐにチャンネル」を活用する可能性を探るため、PTA や小国中学校の協力を得た番組も作成していく。

4. 研究の内容・経過

(1) 各学年の実践概要

3年生小国学 「小国の名物をみつけよう」

- 小国の豊かな自然やそれを生かした産業（農業、林業や温泉施設等）を見学し、自慢できるものを見つけ、自然や人々取材した。取材したものをもとに、班ごとにすごいと思ったこと自慢したいことが一番伝わる写真や動画を選び、ナレーションを考え、スライドショーを作成した。それをもとに番組「ナニコレ新百景」をおぐにチャンネルで放送した。

4年生小国学 「小国を支えてきた人に学ぼう～北里柴三郎の生き方に学ぼう～」

- 郷土の偉人である北里柴三郎の生き方を調べ学習（北里柴三郎記念館の見学や書籍、これまでの4年生の学習成果物から調べる活動等）を行った。北里柴三郎の生き方をスライドショーにまとめた「デジタル伝記北里柴三郎」おぐにチャンネルで放送した。

5年生小国学 「ふるさと小国をもっと知ろう～小国の環境～」

- 小国で環境保全に取り組んでいる方の話を聞く等、小国の環境をよりよくする取材活動を行った。その上で、学習のまとめに小国の環境をよりよくしていくために自分たちができることを考えた。それをビデオ作品「これからの小国の環境」作成し、おぐにチャンネルで放送した。

6年生小国学 「これまでの小国学から学んだこと」

- 12月に開催された町の人権啓発フェスティバルで人権劇「夕焼けが美しい」を発表した。この劇を多くの町民の方々に見たもらうためにこの劇の宣伝番組を作成し、小国チャンネルで放送した。

(2) 実践の具体例1 3年小国学「小国の名物を見つけよう」（24時間）



学習活動・ねらい (活動、時間)	児童の実際の活動・様子	資料・教具等
<p>○つかむ（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小国の名物について出し合い課題を出し合う。 <p>○見通す（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小国の名物」の学習計画を立てる。 <p>○調べる（体験活動）（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのテーマにそって調べる。 <p>○まとめる（7時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり学んだり体験してわかったことをまとめる。 <p>○伝え合う（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを伝え合う。 (発表会) 	<p>※夏休み中に自分の家の近くの名物を調べておく。</p> <p>①1学期の振り返りを行う。（感想用紙から） 夏休みに調べたことを発表する。</p> <p>②小国の名物について考える。</p> <p>③学習計画を立てる。</p> <p>④写真を取りながら宮原の校区内を回る。（計2回）</p>  <p>⑤撮影した動画・写真について、さらに調べるために連絡し聞き取りをする。</p> <p>⑥撮影した写真について、調べたことをまとめて発表する。</p> <p>⑦学習発表会で写真を紹介する。 (ナニコレ新百景)</p> <p>⑧ナニコレ新百景を「おぐちゃん」を使って紹介する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの調べ学習のシート ・学習計画表 ・デジタルカメラ ・デジタルビデオ ・ipad ・はっぴょう名人 ・シナリオ ・おぐちゃん

<p>○振りかえる・見通す（3時間）</p> <p>・調べたこと新しく知ったことをもとに新たな課題を持つ。</p> <p>○まとめる（2時間）</p> <p>・調べたり学んだり体験してわかったことをまとめる。</p>	<p>⑨振り返りを行う。</p>	
--	------------------	--

(3) 実践の具体例2 「小国中と連携した番組作り」

小国学のまとめとしての番組作りだけではなく、小国中及び、おぐにチャンネルと連携し、虫歯防止を保護者や地域の方にアピールするための番組「それはなぜ？～歯は～大切なもの～」を作成し放送した。

番組を見た地域の方から『歯の大切が伝わった』、『小国町の取り組み（医療費補助）仕組みが分かった、子ども（孫）を歯医者に連れて行きたい』等の感想をいただいた。保護者へのアピールはとても効果があった、その他、学校での取り組みのおかげで、児童の歯科医の受診率・むし歯の治療率は大きく上げることができた。



5. 研究の成果

- 身近なおぐにチャンネルを学習の場として活用すること（自分たちの作品が放送される等）が、児童が学習（小国学）に取り組む意欲が高まり大変見られた。特に、地域に出かけての取材活動では、写真やビデオの取り方が番組作りのことを考えてできるようになってきたのが印象的だった。
- 放送した番組を見た地域の方の感想や反響が、番組づくりをする子どもたちや学習をほめるだけでなく（「子どもたちは頑張ってますね～」等）、学習（番組）内容をほめられることも（「何十年もすんでいるのだが、初めて知りました」等）あり、地域のすばらしさや自分たちの地域のよさを誇りに思う気持ちが芽生えた。
- 番組づくりや、放送することで実際におぐにチャンネルの方々の仕事ぶりやアドバイスに触れる機会が多くあり、取り組み前より、番組を制作者の視点でもみること（インタビューは、すべてが使われない、たくさんの取材や撮影の中から効果的なものが放送される等）ができるようになった。

- 小国学の学習まとめだけでなく、小中連携した番組制作、ボランティアのお願い番組など、学校教育の中でおぐにチャンネルの活用が広くできるようになった。

6. 今後の課題・展望

おぐにチャンネルに放送に値する（放送できる）番組作りは、児童の発達段階や指導者の力量が必要となり、気軽に取り組むことは難しいと感じた。しかし、学年に応じたカリキュラムを組むことで、計画的に児童の情報活用能力の育成ができると考える。

また、保護者・地域の方々は児童が作成した番組を好意的に評価してくれる方がおおくあり、それが児童の学習のフィードバックやさらなる学習の意欲につながっていたことから、学校行事や学習予定とリンクした、おぐにチャンネルの向けの番組作りを小国学の中に位置づけていく必要があると感じた。

7. おわりに

「おぐにチャンネル」の番組作りを通して、児童に地域のすばらしさ再確認できたりやメディアを制作者の視点で見ると成果を上げた取り組みができた。また、番組を放送することを通して、地域に向けた学校情報の発信もすることができた。

しかし、まだまだ児童にメディアリテラシーの力や教師の指導力が十分育ったとは言えない。さらに児童を取り巻くメディアの環境変化（携帯・ゲーム・PC等）に対する児童及び保護者向けの情報モラル教育も今後の喫緊の課題である。こうしたことに対しても今年度の実践から学んだことを生かしていきたい。